

# J A C S

## NEWSLETTER

日本消費者行動研究学会ニュースレター

第6巻第3号

発行日●1999年3月30日

発行●日本消費者行動研究学会事務局

## 第6回会員総会開催される！

### — 次期役員の選出および予算案を承認 —

昨年11月7・8日の両日、東京四谷の上智大学中央図書館（L号館）9階会議室において第17回消費者行動研究コンファレンスと同時に第6回会員総会が開催されました（コンファレンスについては4頁の関連記事を参照）。

当日の会員総会では、新規入会会員として学術会員22名、賛助会員2

名、法人賛助会員1社の入会を承認した上で、1998年度の事業計画および予算案を了承しました（予算案等については5頁参照）。

また、会則に従い2000年度の会長として慶應義塾大学の和田充夫教授（1999年度の副会長）を選出した他、以下の方々が次期役員として決まりました。

## 日本消費者行動研究学会学会役員名簿（1999年度）

会長	上田 隆穂（学習院大学）	幹事	桑原 武夫（慶應義塾大学）
副会長	池尾 恭一（慶應義塾大学）	〃	清水 聰（明治学院大学）
〃	和田 充夫（慶應義塾大学）	〃	新倉 貴士（関西学院大学）
理事	江原 淳（専修大学）	〃	山本 昭二（関西学院大学）
〃	恩蔵 直人（早稲田大学）	研究	亀井 昭宏（早稲田大学）
〃	土田 昭司（関西大学）	組織委員	高橋 重雄（青山学院大学）
〃	青木 幸弘（学習院大学）	〃	田中 洋（法政大学）
監事	井上 哲浩（関西学院大学）	〃	永野 光朗（大阪樟蔭女子大学）
幹事	尾上伊知郎（武蔵大学）	〃	守口 剛（立教大学）

## 論壇

## 函館へ行こう

1999年度会長 上田 隆穂

1999年度春の第18回消費者行動研究コンファレンスは、北海道の函館で開催されます。函館大学の赤松潤先生の大変なご尽力のおかげで開催にこぎ着けることができました。赤松先生には大変感謝申し上げたく思います。思えば、学会開催は、交通アクセスのこともあり、主として東京・関西で行われるのが通常でした。開催首位打者は、おそらく関西学院大学であろうと思います。ここ8回のうち3回お世話になっており、打率は3割7分5厘でオリックスのイチローなみです。大変感謝致しております。

それ以外では、大きく南に飛び、1996年春に沖縄の琉球大学で開催(日本マーケティング・サイエンス学会とジョイント開催)されただけだと思います。遠方での開催は、地域色が豊かであり、いろいろな思い出ができました。琉球大学の平野先生のお世話でライブハウスに行き、地元の美少女に促され、手ほどきを受けて上智大学の杉本徹雄先生が無理に(？ それとも喜んで)踊らされたり、それを我々が周りで見ていると楽しいこともありました。

北の函館は、ちょうど南の沖縄と逆方向での地域的にバランスのとれた開催とな

りますが、学会報告もそれ以外もきっと楽しいものになると期待しています。

さてここしばらくのコンファレンスのテーマ変遷(第10回以降のみ)を少し振り返ってみましょう。

1995年春「サービスと消費：消費者と提供者の間」、1995年秋「消費者の買物・空間行動研究の現状と課題」、1996年春「消費者行動研究の方法論的課題」、1996年秋「価格と消費者行動」、1997年春「広告と消費者行動」、1997年秋「消費者行動とマーケティング」、1998年春「生活行動と消費のインターフェイス」、1998年秋「消費者行動の調査・分析手法」といったテーマ変遷でした。

このテーマの流れは、誰がそのコンファレンスのコーディネータを担当するかに依存するところが大きいのですが、それにしてもある流れがありそうです。サービス、小売関連、方法論、価格、広告、戦略と主に各論の流れできて、そして1998年より原点に回帰する形で変遷してきたようです。バブル崩壊後、全てが原点回帰の方向に進んできましたが、テーマの流れもどちらかといえば遅れながらもそうやってきたのでしょうか。

報告件数で行くと、第12回の資料が手

元がないのでこれを抜くと、7、8、8、12、11、8、12と増加傾向にあるのは活発化の観点から嬉しいことです。ゲストの特別講演などがあつたりするため一概には言えないのですが、大学院生メンバーや企業の方の報告が増加しているでしょう。

ちょっとマニアックにミクロ的に見てみると、第12回は抜いて、第10回から第18回までで研究報告、Teachers' Forum、シンポジウム、会長講演で登場回数が多い首位打者は誰だと思いますか？

多分印象が残っておられると思います。が、慶応義塾大学の桑原武夫先生です。登場回数は6回です。2番目は、関西学院大学の井上哲浩先生で5回です。桑原先生は、この期間中海外研修されていたことを考えると密度の濃い登場率で圧倒的首位打者と言えるでしょう。次回の第18回のコーディネータも引き受けられていることを考えあわせれば、貢献度の観点で学会表彰ものかも知れません。瞬間風速NO.1は、関西学院大学の山本昭二先生です。第10回コンファレンスで4回登場はこの期

間の記録です。また純粹に研究報告だけをとってみると報告最多勝は水戸短期大学の青木道代先生の4回です。

第12回を抜いたり、それ以前のコンファレンスもあるので、全てをみると結果が変わるかも知れませんが、それにしてもこれらの方々の貢献度には頭が下がるおもしろいです。

さて今後コンファレンスのテーマはどう進むべきでしょうか。新しい時代のいろいろな流れをどう取り込むべきなのかがポイントになるかも知れませんね。次回のコンファレンスの内容もそれに関わりが大きいと思います。これらに関しても函館で皆さんのご意見を頂ければと思います。皆さんのお考えと私の考えと違っていたときは、私は自分自身について函館訛で『へくさい』と言わねばならないでしょう。皆さん、どういう意味かおわかりですか？

お判りにならない場合には函館で聞いてみて下さい。

(うえだ たかほ・学習院大学教授)

## 函館へのアクセス、宿泊およびエクスカージョンについて

本文中にもありますように、今回のコンファレンス開催に当たっては、函館大学の赤松潤先生にお骨折り頂きました。その赤松先生のお取り計らいで、函館へのアクセス、現地での宿泊、およびエクスカージョンについて、JTB函館支店が下記のような手配をしております。つきましては、同封の案内をお読みの上、申込書により各自お申し込み下さいますようお願い申し上げます。

1. アクセス 往路（3日の羽田発、関空発、名古屋発の各1便）  
復路（5日の羽田着1便、6日の上記各空港着の1便）
2. 宿 泊 函館および湯の川温泉のホテルおよび旅館（7ランク）
3. エクスカージョン 4日：函館山夜景見物 6日：函館市内1日観光

第17回コンファレンス開催される！

## 統一テーマ「消費者行動の調査・分析手法」

昨年11月の7・8日の両日、上智大学四谷キャンパスにおいて、第17回消費者行動研究コンファレンスが開催されました。

今回は「消費者行動の調査・分析技法」という統一テーマの下、次の8つの研究報告がなされるところとともに、活発な意見交換が行われました。

松下光司（慶應義塾大学大学院）

『消費者行動研究における概念分析：  
消費者知識による「意味」の分析を中心に』

秋山 学（大阪教育大学）

『意思決定過程追跡技法の現状と可能性』

益田 一（(株)旭通信社）

『ビジュアルデータを用いたブランドイメージの測定方法』

里村卓也（(財)流通経済研究所）

『スキャンパネルによる消費者の新商品購買行動の分析』

江原 淳（専修大学）

『消費者行動と測定手法』

井上哲浩（関西学院大学）

『消費者行動研究における妥当性：Sub研究とMeta研究』

桑原武夫（慶應義塾大学）

『解釈的方法による消費経験の理解』

丸岡吉人（(株)電通）

『消費者調査における尺度開発の実際：  
アジア地域「モノ持ちスケール」の開発』  
(報告順)

第2日目には、学習院大学の青木幸弘教授を司会者として、井上哲浩（関西学院大学）、桑原武夫（慶應義塾大学）、江原淳（専修大学）の三氏によるシンポジウムが開催されました。

また、自由論題での研究報告としては第1日目の午前中に、次の4人の方が発表されました。

奥瀬喜之（学習院大学大学院）

『価格プロモーション効果への影響を考慮した広告効果測定モデルの構築』

柴田典子（学習院大学大学院）

『ブランドの価値構造に関する研究：  
ブランドを通じた自己呈示を中心として』

宮垣 元（慶應義塾大学大学院）

『オンライン・ソフトウェアの開発プロセス』

栗木 契（岡山大学）

『広告としてのユーモア』

今回のコンファレンスの研究報告とシンポジウムの内容は『消費者行動研究』第6巻第2号として出版される予定です。

## 次回『第18回コンファレンス』は6月4・5日に函館で開催！

～ 統一テーマ：「消費者研究のもう一つの表現」（仮題）～

回りの第18回消費者行動研究コンファレンスは、6月4日（金）・5日（土）の両日に函館大学において開催の予定です。今回は、統一テーマ「消費者研究のもう一つの表現」（仮題）とし、慶應義塾大学の桑原武夫先生をコーディネータにポストモダン的な視点からの消費者研究に関して議論する予定です。

（コンファレンスの概要については、別添の案内状をご覧ください。また、プログラムの詳細については、次回のニューズレター等でご案内申し上げます）。

## 1997年度決算報告および1998年度予算案について

昨年11月7日に開催されました役員会での審議を経て、同日開催の会員総会において1997年度の決算報告および1998年度の予算案が下記の通り承認・決定されましたので報告申し上げます（1面参照）。

ここ数年来、会員数が一定して増加を続けていることは喜ばしい限りですが、大学院生の方々へは会費減免措置をとっており、また一方では、印刷コストや発送コストが増加するなどして、学会の財政はかなり逼迫してきております。

今後とも、事務局でもコストの削減等につとめますが、会員の皆様におかれましても、会費納入などの面でご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

### 1997年度決算報告

#### 【収入の部】

会費収入	1,295,000円
学術会員	
(@5,000*55= 275,000)	
" (院生等)	
(@2,000*35= 70,000)	
法人賛助会員	
(@50,000*17= 950,000)	
前年度繰越金	1,238,074
利息収入	165
雑収入	103,790
	<hr/>
	2,637,029円

#### 【支出の部】

コソファレンス開催補助費	100,000円
(@50,000*2=100,000)	
印刷費(ニュースレター、等) <sup>1)</sup>	1,667,873
事務費(消耗品、消耗資)	103,519
次年度繰越金	765,637
(論文集、名簿、等作成費)	
	<hr/>
	2,637,029円

1) 一部送料を含む金額である。

上記の通り報告致します。

事務局担当理事 青木 幸弘 印

上記の報告を適正なものとして認めます。

監事 和田 充夫 印

### 1998年度予算案

#### 【収入の部】

会費収入*	2,400,000円
学術会員	
(@5,000*204=1,020,000)	
" (院生等)	
(@2,000*100= 200,000)	
個人賛助会員	
(@5,000* 10= 50,000)	
法人賛助会員	
(@50,000*23=1,150,000)	
前年度繰越金	765,637
	<hr/>
	3,165,637円

#### 【支出の部】

コソファレンス開催補助費	100,000円
(@50,000*2=100,000)	
論文集作成費 <sup>1)</sup>	2,400,000
(97年度分:@600,000*2= 1,200,000)	
(98年度分:@600,000*2= 1,200,000)	
ニュースレター作成費 <sup>1)</sup>	200,000
(@ 50,000*4= 200,000)	
名簿作成費 <sup>1)</sup>	100,000
事務費(消耗品費)	100,000
通信費	100,000
雑費・予備費	165,637
	<hr/>
	3,165,637円

\*1998年11月7日現在の種別会員数に基づいて算出。

1)一部に送料を含む金額である。

## ● 新入会員の募集について ●

本学会への入会を希望される方は、本頁下部の用紙によりFAXないしは郵便にて事務局宛ご連絡下さい。折り返し、会員募集案内（設立趣意書、学会会則、会員リスト、入会申込書、等）をお送りさせていただきます（恐縮ですが、電話でのお問い合わせはご遠慮下さい）。

### ● 入会資格

【学術会員】 消費者行動の研究・教育に従事する大学の専任教員、大学院在籍者（在籍経験者を含む）、およびそれに準ずる者（文部省が学術研究団体と認める学会の正会員、大学の非常勤講師としての教歴を有する者、等）。但し、学術会員2名の推薦が必要。

【賛助会員】 本学会の趣旨に賛同する法人および個人。

### ● 年会費

【学術会員】 5,000円（但し、大学院生等の場合は、2,000円に減免）

【賛助会員】 個人会員 1口 5,000円 法人会員 1口 50,000円

- 会員募集案内（入会申込書）の送付を希望します。
- 第18回コンファレンスへの参加を希望します（懇親会 参加・不参加）。
- 『消費者行動研究』（1冊2000円、但し、会員外は3000円）の購入を希望します。

第1巻第1号（「消費者情報処理研究の現状と課題」）	.....冊
第1巻第2号（「消費者の態度構造と意思決定」）	.....冊
第2巻第1号（「消費者間の相互作用とその周辺」）	.....冊
第2巻第2号（「ブランド・エクィティ研究の現状と課題」）	.....冊
第3巻第1号（「サービスと消費：消費者と提供者の間で」）	.....冊
第3巻第2号（「消費者の買物・空間行動研究の現状と課題」）	.....冊
第4巻第1号（「消費者行動研究の方法論的課題」）	.....冊
第4巻第2号（「価格と消費者行動」）	.....冊
第5巻第1号（「広告と消費者行動」）	.....冊

お名前： \_\_\_\_\_ ご所属機関： \_\_\_\_\_

ご住所：〒 \_\_\_\_\_

TEL：（     ）     -     FAX：（     ）     -

送付先：〒171 東京都豊島区目白1-5-1 学習院大学経済学部内  
日本消費者行動研究学会事務局 FAX 03-5992-1007  
（電子メールの場合：yukihiko.aoki@gakushuin.ac.jp）